

今月の最新ニュース

「タイにおける航空機産業の現状と今後(3)」

前回に引き続き、航空機産業の現状がテーマです。前回は、航空機産業の現状と MRO (Maintenance, Repair, Overhaul) 需要の拡大についてお伝えしましたが、今回は、タイで航空機産業へ参入している企業の紹介と MRO 市場の拡大についてレポートします。

前回までのレポートの通り旅客数の拡大に伴い、タイを含む ASEAN 地域に多数の LCC が設立されたことで、同地域で航空機機材が大量に購入されました。それに伴い、シンガポールやマレーシアを中心に OEM や Tier1 が各地域に進出し、同地域内で部品製造を進めることとなり MRO 市場は拡大傾向に向かうことになります。

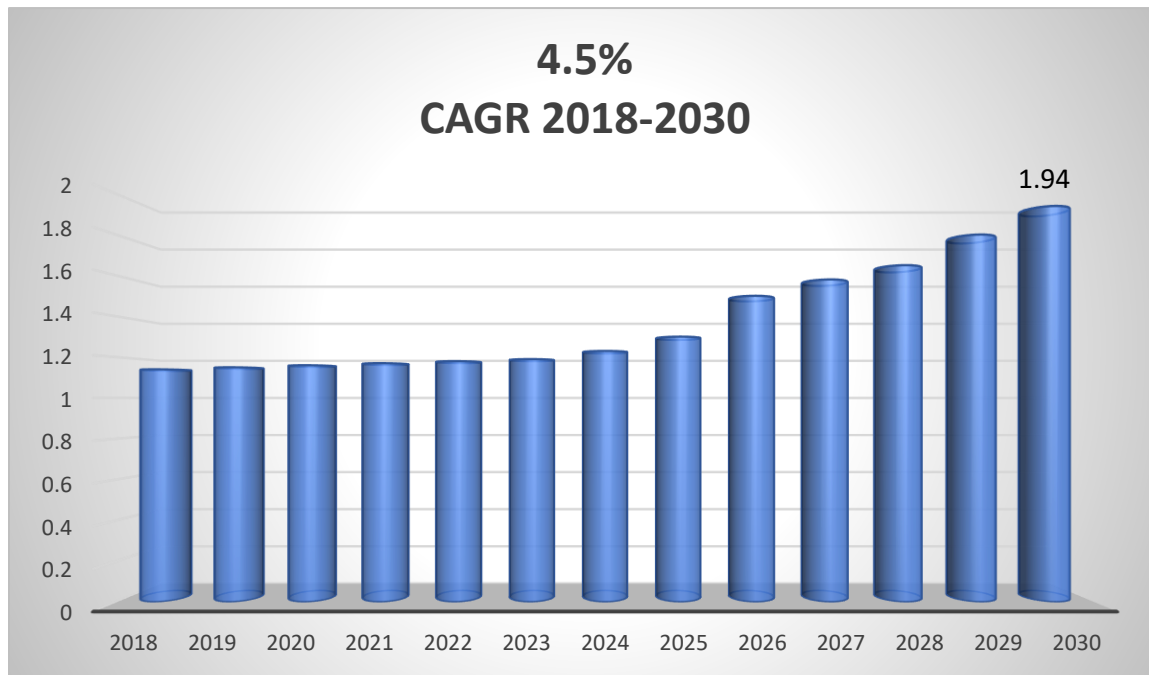
そういった現状の中で、タイも航空機産業への投資に恩典を設けるなど支援をしています。それでも、まだまだ同分野で活躍する企業はごく一部というのが現状です。タイ国内で同産業へ進出し、成功している代表企業として、“CCS Advance Tech Co., Ltd.”と“Lenso Aerospace Co., Ltd.”の 2 社を挙げるができます。

CCS の創業者ブンジャルーン氏は、「創業から自動車部品製造に携わり、精密な切削部品など金属加工の技術においては、非常に高い水準を誇っている自信があります。それでも、航空機部品の標準ははるかに高いものでした。最初の 10 年間は、スペックを実現するための品質向上の試行期間が続きましたが、それらの努力が実り、欧米企業すなわち世界的名航空機メーカーへの供給を実現しました」と過去に NC ネットワークの取材に答えています。同社の部品はボーイング 787、777、737 をはじめ、エアバス A320-NEO、A380 に組み付けられており、主にブレーキ・システム、貨物室システム、センサー・システムの部品で、客室内の照明や椅子などにも使用されています。

Lenso Aerospace も自動車部品製造業で創業したのち、航空機産業へ進出した企業です。「AS9100RevC」「NADCAP」の認証を取得し、主に、航空電子工学計器、エンジン部品、客室内装品、着陸装置、構造部品などを製造しています。

最後に、航空機メンテナンス、所謂 MRO（Maintenance, Repair, Overhaul）の市場規模についてご紹介します。タイの MRO 市場は、2018 年の 10 億 14 百万米ドルから、2030 年には 2 倍の 19 億 94 百万米ドルに拡大すると予測されています。需要が高まっている一方で、供給は需要の 46% しか満たしていないのが現状です。そのためタイ政府は、EEC(東部経済回廊)内にあるウタパオ空港周辺をタイの MRO ハブに発展させるプロジェクトを計画しています。実際に 2018 年、エアバスとタイ国際航空が共同での MRO センター開発の投資を発表しました。残念ながら実現には至っていませんが、MRO センターの拡大はタイにおける航空機産業拡大の重要項目となっており、アフターコロナにおける進展によって、市場環境が大きく変わることが予測されています。

【1】タイにおける MRO 市場の拡大



出展：Knowledge Sourcing Intelligence

【2】 タイにおける OEM/マニファクチャリングのエコシステム (NC Network 作成)

OEM / マニファクチャリング・エコシステム	
Tier 1	 SAFRAN 
Tier 2	   
Tier 3	   
Tier 4	   

【3】 MRO のエコシステム (NC Network 作成)

MRO エコシステム	
ラインメンテナンス	   
ヘビーメンテナンス	   
エンジンサービス	   
コンポーネントサービス	   

大阪産業局 タイビジネスサポートデスク
株式会社 NC ネットワーク(タイ: NC BIZ CENTER (THAILAND) CO., LTD.)

日本事務所：東京都台東区東上野 1 丁目 1 4 番 5 号 ユーエムビル 8 階
タイ事務所：142 Two Pacific Place Unit 1101 11F, Sukhumvit Road,
Khlongtoei, Khlongtoei, Bangkok 10110 THAILAND